

## 未来を見据えた復興を



議長  
平田 武

平成27年の新たな年を迎え、市民の皆様もそれぞれ心に期するところがある事と思えます。

昨年を振り返ると、選挙の多い年でありました。その中に南相馬市議会議員選挙もあり、新たに22名の議員で構成されました。私ごとではありますが、再度市議会議長に就任し、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

市議会として執行機関への確に市民の皆様の声届け、真に議員の権限の遂行にむけ努力して参ります。

昨今の自然災害に目を向けると、予想をはるかに絶する大雪やゲリラ豪雨、竜巻、火山の噴火、地震など、多くの災害が発生しております。本市を始め、東日本大震災と原発事故による被災地に全国から多くの支援をいただき、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

自然災害はいつ起きるか予測がつかないこともあり、行政も含め市民一人ひとりが常々防災に対する備えを心掛けておくことが必要と考えます。

さて、大地震から四回目を迎えました。未だに仮設住宅などで避難生活を余儀なくされている市民の皆様がおりますが、自主再建を含め、生活の拠点の再生を急ぐべきと考えます。

本年は復興に向け加速化が最重要課題であります。原子力発電所の廃炉問題や除染後の放射能の監視などが弊害となっております。

昨年、南相馬市復興総合計画基本構想が策定され、将来を見据え確実に復興を進めるべくその指針が示され、復興に向かつて邁進する時期と考えます。

本年3月には、常磐自動車道が全線開通することが示されましたが、現状のピンチをチャンスと捉え、市議会としても復興に向け、しっかりと取り組んでまいります。

また、除染廃棄物の中間貯蔵施設への搬入が開始される前までに、本市の国道及び県道の改良と常磐線の復旧を国・県、さらにはJRに積極的に要望活動を行って参ります。

本市の復興には課題が山積しておりますが、やる気と挑戦の気持ちを持って果敢に取り組み所存です。復興の在り方や将来のリスク、人口推移、社会福祉、高齢福祉、教育環境などの変化にも目を向けて参ります。

結びに、市民皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

## 南相馬市の早期復興と再生を



副議長  
細田 廣

新年おめでとうございます。

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故の発災以来、四度の正月を迎えました。

輝かしい新年ではありませんが、まだ避難生活を余儀なくされている方や、自主避難中の方々を思うとき、一日でも早い暮らしの再生を願っています。

南相馬市議会も、昨年12月から22名の議員により新体制ができました。この災害から立ち上がり、復興を加速させるために、議会は懸命に対策に取り組んでいます。

子供たちに夢のある未来を、働く世代に就労の場を、高齢者に豊かな日々を、等々政治課題は山積しています。

更に、原発災害の克服も大きな課題です。除染は完璧に実施すること。適正な賠償保障の継続と、賠償の格差是正・風評被害の払拭も求めています。原発事故の収束はこれからであり、災害の風化は許されません。

現実を直視し、市民目線で確実に解決に取り組んでまいります。

同時に、10年先、20年先を見通した対策も必要です。

人口減や高齢化社会への対応、各産業の再生と雇用の拡大、専門的な医療福祉教育の拡充などは、広域的な対策が必要と考えます。

南相馬市が、相双地域の中心となるための施策も追求してまいります。

今こそ、議会は一丸となり、執行機関と十分に意思の疎通を図りながら、市民生活の再建、南相馬市の復興と再生に全力を尽くします。

皆さまには、これからも議会に対し、ご支援ご協力、ご教導を心よりお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

# 総務常任委員会

委員長 小川尚一

平成26年度南相馬市一般会計補正予算について

**質疑** 歳入中、総務費国庫補助金の中で、福島再生加速化交付金が手当されているが、復興に際し財政当局から各部署に企画を進めるような取り組みをして、有効な財源活用の考えは。

**答弁** 復旧・復興のために必要な事業は数多くあるが、ほとんどが特定財源の対象になる。企画課が中心となり、「入るを量りて出ざるを制す」という考え方のもとに、必要な事業について構築している各関係課に対しては、交付金の制度、主旨等をしつかり周知し、事業構築と合わせて、適時、国と協議をしながら交付金の確保、財源確保に努め庁内で進めている。

**質疑** 歳出中、総務費の総務管理費について、人数を増やしたけれども、ふえているのは部長職で、中堅

職員が軒並み減っている。人数の問題プラス、年齢構成、経験などを踏まえて、採用や補充を中堅職員の補充という視点で対応すべきでは。

**答弁** 復旧・復興に対応するためマンパワーが不足するという観点から、任期付職員を大幅に採用し、100名に近い採用となっている。

震災前に比べて任期付職員の割合が高くなっている部分もあり、本年度実施した採用試験は、年齢を引き上げて実施した。中核となり企画ができる職員の確保は必要であり、即戦力の職員を確保できる取り組みとして別枠で、来年度経験者枠採用も現在検討している。

**質疑** 小高区将来のまちづくり提案事業補助金72万9千円は、平成28年4月を目途に帰還と、解除に向けインフラ整備など考えているが、現状を踏まえて

どのようなまちづくりをするのか、目標を定めた上でこの委員会を行うのか。

**答弁** 専門家の旅費相当額と立体模型をつくる必要経費を上げた。専門家は、都市空間専門の東大の教授で、小高区の再生には立体模型をつくり、目視して議論しないとよいまちづくりはできないと言われていた先生である。小高のまちづくりを平成26年度3月までに、ある程度一定の方向性を少人数で模索し、平成27年度に具体的な取り組みを検討していく。現在、策定している復興総合計画との整合性を図り、地域の住民がどういう再生を目指すのか協議をしていく。また、

東京大学特任教授についてはアドバイザーとしたが、アドバイザーと訂正。

**質疑** 小高区アンケートについて、世帯全員の意向を把握し確認するという調査だが、世帯主を通すのではなく、各々が回答する方が、より正確性の高い意見を集約できるのではないか。

**答弁** 今回、平成28年4

月解除を目標としているため、公共施設の再開計画や解除指示に向けた工程などを示しながら、計画の青写真を示した上でアンケートを行う。家庭内での問題もあるかと思うが、ある程度家庭内で「私は戻る。戻らない。子供が帰ってから戻る。」という話し合いをしていると思われる。世帯主へ送り、記名により一人ひとりの帰還意向を確認し、戻りの方の意向を把握して、必要な行政サービスを検討していく。

**質疑** 南相馬市鹿島区不採算地区公的病院等運営費補助金について、厚生連は経営主体として、赤字経営をどう捉えているのか。

**答弁** 厚生連全体の経営状況は、2カ年から3カ年ほどマイナスのときもあったが、全体的には黒字経営で推移をしている。5つの連結決算では黒字となっているが、鹿島厚生病院は、赤字の経営状況が続いている。今回、地域医療を確保していくために国による全額特別交付税で措置される

制度を活用するものである。審査の結果、原案通り可決。



鹿島厚生病院

公の施設に係る指定管理者の指定について

**質疑** 選定理由の「自主事業計画書、施設効用の最大化を図るための具体的手法、経費節減に係る対策及び創意工夫」などの項目について具体的内容は。

**答弁** みんなでつくるまちづくりサロン事業。市民活動サポートセンターとの協働事業として講演会や教室等の開催。市民発見広場として、始めの一步自主事業。昔の遊びを通じて親子のきずなを深める事業、伝統芸能の復活事業など5点ほど自主事業の提案があった。審査の結果、原案通り可決。

## 常任委員会審査